

人工知能とサービス科学研究所

Research Center for Artificial Intelligence and Service Science

研究所の概要

人工知能技術の各種分野への応用手法が近年確立してきているが、さらなる多分野への適用や複合分野の融合手法やその実現手法については、さらなる研究が必要とされる。具体的に、近年注目を集めている、Cloud Computing、Crowd Computing、IoT、Big Data、インタフェースなどの各種技術は、人工知能技術を有機的に活用でき、極めて広い分野での適用が期待できる。また、これらの技術は、人間、組織、社会において関わりが深く、サービスの観点においても研究が必要である。とりわけ、サービスマネジメント、サービスマーケティング、サービスエコノミクスおよびビジネス的議論が必要不可欠であり、技術的観念および社会的観念の融合が必要であると予想される。そこで、横断的、学際的な観点を取り入れつつ、次世代の人工知能研究を牽引し、社会活動を効果的に支援することを目的とする。



所長

松尾 徳朗

Tokuro Matsuo

キーワード

マルチエージェントシステム、交渉と協調理論、社会実装、メカニズムデザイン

令和4年度の実施項目

- サービスと技術の融合によるビジネスイノベーションの実現手法の研究促進
- 学術的成果の社会還元を通じた科学技術啓蒙活動
- AI 技術に基づく新市場創造
- 国内外を含めたアウトリーチ活動

令和3年度の研究活動内容及び成果

1. JST CREST に関わる研究推進

ハイパーデモクラシーにおける議論の促進支援や合意形成支援を目的として社会実験を実施するとともに、成果を関連の国際会議や国際ジャーナルで論文として発表した。

2. 研究所主催国際シンポジウムの開催

2021年度は、1年間を通じて17回のシンポジウムおよびフォーラムを実施した。社会心理学、社会最適化、人工知能、エージェント工学、コンベンション学、マイクロ経済学などをテーマとして実施した。

3. 国際観光コンベンションシンポジウムの開催

2021年10月21日から26日かけて、日本政府観光局（独立行政法人 国際観光振興機構）の協賛のもと、Research Team on Convention & Service studies との共催により、本シンポジウムを開催した。参

加者は、コンベンションビューロー職員および管理職、ホテル、運輸交通、観光関連、官公庁の職員、国際会議場等の施設職員などであり、プログラムは3件の基調講演および3件の招待講演、およびフォーラムディスカッションから構成された。(1) ウィズコロナにおけるインバウンド回復に向けた取り組み、(2) ハイブリッド開催が増加する中での現地開催への取り組み、(3) リスクマネジメントに関する取り組みをテーマとして、学外の有識者や実務者を中心に40名の参加者があった。

4. AIT-BINUS International Symposium on Industrial Technology の開催

令和元年度に国際交流協定を締結した BINUS 大学との共催で、産業技術をテーマとしてエンタープライズアーキテクチャーや企業の IT ストラテジーについて、講演および聴講者を交えたフォーラムディスカッションを実施した。企業が大規模なエンタープライズアーキテクチャーを導入するにあたっての運用モデルとそのインパクトについて、Zachman フレームワークと Togaf フレームワークの利点および欠点が論じられた。また、ソフトウェア開発プロセスと統合における過去の金融機関の失敗事例を通じた、望ましい手法と対策について論じられた。フォーラムディスカッションにおいては、資金力が乏しい企業における IT ガバナンスの実行について、企業の社会的責任の観点から議論がなされた。